



作·画  
雨野夜美

## 最終戦争

---

さあ 最終戦争の始まりだ  
窓はもう開けたかい  
自分をどのように終わらせるか  
まずは顔洗っとけ

ペンは剣より強いと教えられた  
皆は次々にペンをとり始めた  
遅れるなよ  
ペンが強いんじゃない  
意志が強いんだ

何だ 行き先も今日の服もまだ決めていないなんて  
自分の事くらい自分で考えろよ  
今日という日の終わらせ方を  
お前以外にお前のリーダーなんていないよ  
さあどうする それともまた寝る？  
また寝る？ いいよ また寝る？ また寝る？

基本的に車のキーは壊れてる  
何度もボタン押して たぶん電池が怪しいのだと思う  
あきらめる？ ねえ あきらめる？

今日の最終戦争のBGM 演歌だ演歌なんちゃって  
マスクをとって 汗をぬぐう  
それさえ汚い事だってわかってる  
でもここは果てしなく暑い  
完全装備 頭にまでかぶって  
ベルトコンベアの食品と戦うのさ  
でもこれが僕の望んだ戦いじゃないって  
死にたいほどわかってる  
だったらどうする？泣き出すんだ？どうする？

進んで遅れて時計の針

ただ暑いんだ 裸になりたいくらい 暑い 暑い 暑い

僕はいったい何をしているんだろう？一生をかけて

ベルトコンベアと戦って終わるの？

だったらどうする？逃げるの？どうする？逃げるんだ？

ベルトコンベアかすんで シンキロウ

さあ 最終戦争の終わりだ

僕が今日天に召される前に

やりたい事全部出来たかなあ

来世に宿題を持ちこむなんて悲しい事言わないで

時計が止まってて何時かわからない

なんにもない 星もない 食べるものもない

さあ 最終戦争の終わりだ

ノートにガーッと意味不明な汚れた話

書き散らかしては殴っては

エライ名言を打ち倒せ 倒せ ペンで倒せベイビー

どうする？バレちゃうね どうする？どうする？

僕が今日天に召される前に

ペンであと3時間僕は戦いに出る

撃て 倒せ 僕の詩創がペンで消される前に

君は今日の君をどう終わらせるの？

君の野望の使い道は何？

それとも また寝る？

## バーゲントッツ

---

スーパーの売れ残りコーナーに  
どうみても怪しげな 高級ぶったアイスがある  
「あれはバーゲントッツだ」と人は言う

だいぶ前からいらっしゃったのだけど  
誰も手を伸ばしていないのか ずっとそのまま  
あれは 賞味期限 大丈夫なのだろうか  
(だから安くなったのかな)

ああ ずっと昔食べたハーゲントッツが僕を呼んでいる  
「自分を食べて下さい」と呼び起こす  
ただのバニラなのに  
口の中に幸せがとけて広がるあの味を  
舌は準備完了  
ラメ入りのバニラビーンズ  
もしあれが ハーゲントッツだったのなら  
記憶を盗んででも持ち帰りたいとか  
あれはたしか冬の晴れの日で  
冷えきったアイスをスプーンで少しずつけずって  
家族と分けあって食べたとか そんな思い出が  
一度に浮かんでくる たくさんの風船のようで  
受けとめきれないのに

でも 安すぎるあのアイスは 実は別の国製で  
ダンボールと大豆を合成してできていたらどうしよう  
だから あれは バーゲントッツと僕も呼んでいて  
その記憶はきっと  
カゴに入れて持ち帰る事はできないんだ

ああ バーゲントッツが僕を呼んでいる  
見るたびにどんどん安くなっていくあのアイスが

(もう100円もしてないな)

もはや あれは危険なのか 食べて大丈夫なのか

それでも僕は 震える手で

幼い日の記憶を盗んで リュックに入れた

闇の中にも草生える

なんてシンドロームなブルーライト

オレは地球全体にネットを張るクモ

彼女は美しい まるで金のように

ここをクリックして

口座の中から金が落ちたっていうニュースがまた

夜の真っ黒な雪のように降ってくる

満員電車で降りてきたクモ

あの子きつとこじらせてるぜ

左手にやたらアクセサリーつけてる

心を抑えて人波をかき分ける

もう一度逢いたいからね？

アカウントと電話番号教えて

手を握っていい？ 必ず君を金にするから

人間ひとり居ない公園にぽつり しずくの花

糸だらけ キスだらけ 傷だらけ

早朝からキーボードが唱える黒魔法

タバコを一服 ひさしぶりの空を見たんだ

こういう時しか安らげないのはなぜ？

生まれた時から金に飢えていて

一杯 まきあげて騙して金取って

それでも心は飢えていて

URL貼っとくから ここをクリックして

彼女の金と将来 想像しただけで美味そうだ

彼女は美しい まるで金のように

ただ「YES」をクリックすればいい

ただ電話をかければいい  
有名人にしてやるから「同意」をクリックしなよ

ひとり暮らしのオレの濁ったアパートのソファ  
傷口からニコチンとタールを注いで洗脳

闇のドアが開く音 日付がたぶん変わった頃  
彼女の泣き顔と決意の目 揺れるライターの花  
ニコチンとタールで汚れたオレの脳が  
バーズンから本当の空を叫ぶままで  
宇宙にでも飛んでいけるような気分になってたんだ  
魂の燃えカスをもう一度燃やして謝れ

その激しさの中に色を見たんだ  
焼け落ちていくPC 二人同じ色を見た

オレはたった6畳の部屋で思い沈むクモ  
ニコチンまみれのしずくの花蜜 胸をクリックして  
灰が降りつづくキーボード蹴って走った  
地球全体にネットを張ったって それは何？  
どうせ捨てていくなら 嘘だと思って もう一度振り返れよ  
彼女は美しい まるで彼女のように

どうして心の声まで否定したらいいだろう？  
夕暮れの教室で「許せない」って叫んでるボクを

世界はそれを「いい」って思ったんだ  
ボクはそれを「ちがう」って思った

「すばらしい」  
「素敵だ」  
「かわいい」  
「サイコー」  
「さすがこの人は」  
でもボクは「ちがう」って思った

頭から足まで壊れてる人なんて居ない  
もう傷だらけの机の影から  
きこえてくるんだ  
知らない誰かをあのときかばった  
キミは「正しい」って

世界はそれを「正しい」って思ったんだ  
「もっとやれ」って  
ボクはそれを「許せない」って  
今日も叫べなかった

否定して否定して生きたいわけじゃなくて  
正しいものを正しいと言いたいただけ  
割れた花ビンが邪魔する  
こんなに冷たい「ありがとう」があるなんて

PC インスタグラム LINE ツイッター  
世界がキミを「ただのバカだ」と笑うだろう  
ののしられても



傷つけられても

笑われても

追い出されても

「許せない」って叫んだキミをボクは

「たったひとり正しいんだ」って思う

あなたは今乾いた大地を見上げているだろうか  
それともビルの街の中で好きなカクテル飲んでるだろうか  
小石むきだしの大地の上をはだしで歩いているだろうか  
大きな大きな滝の虹の声を聴いているだろうか

あなたはいつか私に  
「交換日記つけよう」って言った  
マックとピアスと変な日本の習慣の話  
最初はそれくらいしか書いてなかった  
そのうち返ってきたノート  
あなたは午後11時に少し窓を開けて飲む  
カクテルが好きだと  
日記の中で言ってた  
私もカシスのカクテルを  
夜に窓を開けて飲んでみた  
何が美味しいのかわからなかった  
でもいまだにその味を思い出すんだ

あるとき返ってきたノート  
突然「Blue」って書いてあった  
下に「これを地図にしてみて」って  
「Hope」「Truth」「Youthful」「Highway」  
思いつく限り書いたんだ  
あなたはそれを読んで  
雨降りの私の影に何を見たのだろうか

交換日記は1年 2年も続いて行って  
100均で買ったノートが宝石で埋められていくような

あのとき私がわたしたノート  
「母の誕生日があるから

プレゼントを一緒に選びに行こう」って  
さっそく二人で車とばして  
チープなアクセサリ売り場で  
選んだのはなんと同じネックレス

手をつないで歩くのは  
そのときが初めてだった気がした  
なんとなくハグした  
たぶん向こうのあいさつで  
そして交換日記のノートをわたしたあなたは  
「しばらく国に帰るから またね」って言った

あなたは今どこにいるだろうか  
あなたは今どこで誰と何してるだろうか  
「さよなら」なんてまだ言ってないのに  
交換日記はそのままとってあるよ  
二人の時間が止まっても 私たちは進んで行くだろう  
あなたは裏切ったりしないから  
それだけはわかってるから  
「またね」って手を振った あの場所に心は置いておくよ

あなたはただの交換日記に大陸をつめこんだ  
青い光しか見えないハイウェイをつめこんだ  
自分の足が誰かと違ってとても無力なのに気がついた  
「空港に行けよ」って言われたって交換日記かかえては

立ち上がれ！毛根

---

金曜日はストレスのたまりすぎで  
頭に10円ハゲができているのに気がついた  
信用できない人の話は聞き流すこと  
寝ていても時間に追われてること  
立ち上がれ！毛根  
そんな小さなことに負けてちゃダメなんだ

月曜日は死にたくないけど  
今日限定で病気ということにしたいこと  
かばんの中には不必要なものばかりだってこと  
春なのに雪が降ってるから明日の面倒がふえること  
そしてやっぱり朝になれば  
雪かきにかりだされるってこと  
立ち上がれ！毛根  
鏡の前で深夜ポーズ決めてみるんだ  
守るべきものがあるヤツほど  
カッコいいヤツはいないから

立ち上がれ！毛根  
これは僕の応援詩  
10円ハゲなんか隠さない  
僕が強くなっていくしるしだ

## ウイルス

---

しゃべって　しゃべって　ウイルスを交換  
欲しいけど　実はいらぬローヤルゼリー  
コンクリートやTシャツで巣を創った人間たちは  
その目で見えた事もない宇宙や銀河について  
偉そうに語る　何光年

殴って　殴って　それでもまだ足りないだろう  
風邪をこじらせて内出血しながら育ってきたんだ  
巣の中の人　みんな同じような見た目で  
岬に立って「地球は丸い」だなんて  
ウイルスに感染していませんか

別の惑星へ行きたいな  
この図書館に置いてある本の  
そこには未来の僕らは住めるだろうか

雲の中でさえ通れるんだから  
人間様は地球で一番偉いな  
でも腹減ったから　何か食べたいな

この地球という　おかしい人間の巣から  
外に出て　はばたいてみたいな  
宇宙とか銀河とか　それって押しつけられた地図だろう  
本当は何があるのか

人間のかかった風邪は巣全体を包もうとする  
何も知らないままで本当の女王蜂をさがしているんだ  
平凡な妄想力で　黒板に土星の輪を描く  
それって出版された教科書のパクリだと思うんだけど

外に出て はばたいてみたいな

明日のありより人間様が偉い この巢から

外に出たらノートに書きとめた疑問 わかるのかな

太陽って本当にあるの？

月って 銀河って 本当にあるの？

地球は丸い惑星 銀河は何億年 何光年 宇宙の寿命は

ウイルスに感染していませんか

ウイルスに感染していませんか

自分で考えたことあるかい

# Halo

---

はあ

あたし ぬれ雑巾

今日はあおむけに寝れない

言葉にならないくらいだ

言葉にならないくらい自分が愚かで

言葉にならないくらい胸を破りたくて

言葉にならないくらい助けを求めてて

言葉にならなくて言葉にならなくて

言葉にならないくらい言葉にならないんだ

なぜ？

どうして？

今日はあおむけに寝れない

電気つけても消しても怖い でもそうじゃなくて

言葉にならないくらい意味の無い時間

言葉にならないくらい耐えて笑ったつもりで

言葉にならないくらい誰かの鏡のようで

言葉にしてもならない言葉にならない

言葉が出てこないくらい言葉が出てこない

あなたは誰…？

光で照らしてくれる

雑巾のあたしを

言葉にならないくらい熱くて胸が熱くて闇がときめいて

目の中が熱くてひたいが熱くて悔しさが切なくて

横を向いて寝よう

もっと聴きたいから

あなたの歌声

機械のぬくもりを突き抜けてはばたく

言葉にならない光でもう言葉にならないほど

キラキラ残って言葉にも何にもならないほど

あなたは誰…？

光で照らしてくれる

ああ 光で照らしてくれる

夜に連れて行かれる

みんな夜に連れて行かれる

生まれる前からあなたの声を死ぬほど聴いていたりして

言葉がときめいて出てこないほど出てこないほど熱くて

あおむけに寝れない



ぬれた熱で閉じこめてしまいたい

光で照らしてくれる

ただ 光で照らしてくれる

ぬれ雑巾のあたしを今ヒロインにしてくれる  
強くて強くてもう言葉にも夢にしかないほど

光で照らしてくれる

待って 光で照らしてくれる

スイッチ押すときこえる

あなたは 誰？

## スタバ

---

僕は誰にとっても一番手じゃないんだ  
みんな僕以上に大切な人がいて  
僕は君にとっての三位か四位かもっと下　まず視界に入ってるのだろうか  
知らなきゃいい事知ってるよ  
もし大地震が起きたら君はまず　別の人をかばうって事

君がiPhoneで「スタバへ行こう」って言った  
さっき聴いてた「スタバ」という曲　かけーなあ  
シャウトの心地よさがたまらないよ　ドーパミンが冬なのにアロハって言ってる  
音楽的に叫べば　シャウトになるんだ？僕は何でもいいから叫びたいよ  
シャウトしたいよ　スクリーマーになるよ　この気持ちを

### 仕事の帰り道

時が流れゆくまで　真っ暗な大理石に座って悪い姿勢で  
噴水を背に　スタバを聴いていた  
もっと君に赤いタトゥーを彫るまで  
僕が噴水みたいに自信がつくまで  
シャウトして欲しい　無理な音量にイヤホンがうなる  
僕の耳はちょっと壊れてる

君はスタバの前で立ち止まった  
列に並んじゃっていいのかな  
適当に注文したら　コーヒーめいたものが出てきた  
僕の一番手  
僕の一番手  
ただ横顔がかわいいなって思ったよ  
ストローをくわえて笑う

もし大地震が起きたなら  
君は誰か別の人をかばうだろう  
それでも僕は君をかばうだろう

もうわからないよ

君は引っ越すんだって

会話の内容すら 涙を落としたプリントのようで

スタバってそうやって使うんだね ようやくわかった

星がバーンって爆発して 鼓動のリズムが崩れた

「スタバ」っていうのはやっぱあの曲の事だと ベッドの中で知ったよ

コーヒーめいたものなんかいないから 友情が欲しかった

去っていくのに楽しげな君の顔なんて 見たくなかったよ

枕に口をあてて 叫んで忘れようとして

これがシャウトなんだって言えたらいいのに

最後にいつか わかるだろう

君がまぶたを閉じるそのとき

ずっと手を握っているのは あのじゃなく 僕だから

風呂場でシャウトの練習していたよ ただの叫び声よ君に届け

君はそれでも僕の一番手

## 春は来る

---

「この病気は火事のようなもので  
一度焼けたら元に戻らない」と貴方は言うけど  
それって最初に誰が言ったの？  
何年前の情報なの？  
みんな凍えてひび割れていく顔と手

残念そうな顔で  
凍えるクランケに「一生」を告げる  
病気とは金か

病気の焼け跡に春が来て  
花が咲かないと誰が決めたんだ？  
芽のひとつも出ないと誰が決めたんだ？

焼け跡をみんなで囲んでる ころうじて4度の薬  
病気の切なさに凍える人々  
一度焼けたら 笑い重ねたこの家は  
「もう元に戻らない」ってさ  
そう言う貴方は あたたかい家に帰るんでしょう？

焼け跡に春が来て  
花が咲かないと誰が決めたんだ？  
病気を忘れて生きる木が生えないと誰が決めたんだ？  
何年 何十年後には  
高い高い知恵のタワーが  
幸せの花咲く公園が  
家族や仲間のたくさんのビルの街が  
立っていないと誰が決めたんだ？

教えてあげる

---

くもり空からほろほろ 命の結晶が降ってくる  
手のひらに落ちたひとつをそっとポケットに入れた  
こんななさけない手のひらを 選んでくれてありがとう  
ダッフルコートに手を入れて キミをあたためてる

キミがもし 生まれたなら…  
どんな病気でも障害でもいいよ 生まれたなら…

教えてあげる  
とれたボタンを糸でつける方法を…  
教えてあげる  
パスタのおいしさより そのパスタを作る方法を…

だってママはキミをずっと 見ていられるわけじゃないから…

教えてあげる  
いつかキミはだまされるっていうことを…  
教えてあげる  
それでもあきらめちゃいけないっていうことを…  
教えてあげる  
大人になるのはゴールではなくスタートだっていうことを…  
教えてあげる  
大人が働くのはお金のためだけじゃないっていうことを…

くもり時々命 家に着いて  
いつか春が来たらお別れのダッフルコート  
ただ永遠に夢を見ていたい  
回るヒマワリ アサガオに水をあげる小さなキミを

教えてあげる

ポケットの中はいつか冷たくなるっていうことを…

教えてあげる

いっぱい降ってくる命　ママが受けとめたのはキミだけ…

教えてあげる

いつかキミが道に迷ったとき　ママはもういないっていうことを…

教えてあげる

助けてあげるなんてできないから　キミが生きぬく方法を…

教えてあげる

床をふく熱いぞうきんのしぼり方を…

教えてあげる

涙をぬぐうティッシュの置き場所を…

キミがまだ小さいうちに　春が来て

ママはダッフルコートをつれて遠くに行くだろう

キミがポケットにいたクリスマスの　ぬくもり忘れないよ

ポケットからいつか歩き出す　キミのために祈るよ



## ニコチンライター

<http://p.booklog.jp/book/113070>

著者：雨野 小夜美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/113070>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト